

平成27年度 能美市立辰口中学校 学校評価

重点目標 (めざす姿)	具体的方策	主担当	【評価指標】 ＜成果指標＞＜努力指標＞ ＜満足度指標＞	【評価の根拠】 達成度判断基準	取組状況 (中間・学校教育懇談) 8月	評価	取組状況 (最終評価) 1月	評価	学校関係者評価者 による意見	今後の改善策
1	組織的な学校運営 主任等を中心として、同僚性・専門性を活かし、研修・協働する学校づくりをする。 安全対策や危機管理の指導力を高め、いじめ・不登校などには組織的に迅速に対応する。	教頭・教務	＜成果指標＞ 主任層のリーダーシップのもと、各分掌と学年が縦横の連携を図り、組織的な学校づくりが行われている。	＜教職員アンケート＞ 校長の経営ビジョンを理解し、連携を図り実践しているか。	実働の部分である学年会が組織的に機能している。学年間の横のつながりも機能している。	A	主任の機能化による縦、学年会の機能化による横の連携が組織的に実施できた。	A	学校が目指す生徒像を示し、成長を伝えることが大切。いじめ問題は見極めが教員の力にかかっている。人的環境づくりが大切。不登校生徒の学力保障と進学の手立てを確実にしてほしい。	学校経営ビジョンの具現化、組織的運営の推進。 いじめ・不登校対策として、早期発見・早期対応に努める。
		生徒指導	＜努力指標＞ 職員会議で情報交換を行い、各主任や担任・学年会が縦横の関係でいじめ・不登校に対し組織的に対応している。	＜教職員アンケート＞ いじめ・不登校は減少したか。情報の共有化はできているか。	情報を共有し、校長のリーダーシップの元、組織的に取り組みを進めている。	A	担当を中心に、教育センターや支援員と連絡を密に取り組みを進めている。	A		
2	知 全員の生徒が「わかる・できる」ように工夫・配慮された授業をめざす。授業のユニバーサルデザイン「焦点化・視覚化・共有化」を進める。 すべての教科・総合的な学習の時間で言語活動をおこない、学び合いを充実させて、筋道や根拠を明確にして表現できる力やプレゼンテーション力を育成する。 「授業の辰スタイル」を身に付け、家庭学習や読書活動を充実させ、自ら学ぶ積極的な態度を育てる。 学びのPDCAを構築し、計画的、組織的に学力の検証と改善を重ね、基礎的知識・技能を定着させ、これらを活用する力をつける。	教務	＜成果指標＞ 3つの視点「焦点化・視覚化・共有化」を意識し、活力ある授業が行われている。	＜教職員アンケート＞ 「焦点化・視覚化・共有化」を考慮した、「わかる・できる」授業が実施できているか。	共有化に課題を残すものの、授業交流週間の結果からも、3つの視点を取り入れる授業の取り組みは進んでいる。	A	焦点化・視覚化の取り組みが充実し、共有化についても思考力を高めるための学び合いの授業を進めている	A	少しでも数値の下がった項目に対して分析し、課題を明確にしてほしい。学力向上は引き続き取り組んでほしい。	課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習の推進。 学びのPDCAとカリキュラムマネジメント研修を通して、学力向上策の改善を行う。
		教務	＜努力指標＞ 話し合いや言語活動の場があり、学び合いで学習の深まりや表現させることを意識した授業が行われている。	＜教職員アンケート＞ 学び合いや表現活動を通じて、表現力やプレゼンテーション力を育成できたか。	表現力、プレゼンテーション力育成の達成度が低い(59%)ため、表現力等を育成する授業を2学期以降実施する。	B	アクティブラーニングの手法を取り入れた授業等で、思考力・表現力の育成を進めている。	B		
		教務・研究	＜満足度指標＞ 学校は家庭と連携し、家庭学習や読書の習慣を涵養している。	＜保護者アンケート＞ 家庭学習や読書習慣、自ら学ぶ積極的な態度が身についたか。	家庭学習の習慣は、二極化が課題であるため、家庭学習時間の把握と学習時間の増加を促す取り組みをすすめる。	B	終礼時学習を活用して家庭学習の計画づくりや保護者の協力で、家庭学習の時間が増加した。	B		
		教務	＜満足度指標＞ 先進校視察等を通じ、学びのPDCAサイクルを構築し、基礎学力の定着、活用力の向上に努めている。	＜保護者アンケート＞ PDCAサイクルを実施し、学力の検証ができていますか。評価テストの通過率が向上しているか。	教職員対象のアンケートでは、PDCAサイクルの達成度が低い(58%)ため、国県等の調査の分析、結果などを授業改善に活かす。	B	評価問題の分析を通して、各教科で授業改善を行った。	B		
3	徳 人間教育を学校教育の中心に据え、道徳教育においては、「アクティブ モラル ラーニング」を研究し、地域教材と人材の活用や家庭・地域との連携を深めて充実を図る。 授業や体験活動を通して、自己の能力や適性を自覚させ、自己実現できるキャリア教育の充実を図る。 生徒会活動やボランティア活動を通して、自治・自浄の能力を高め、開発的生徒指導に努める。 自尊感情や自己存在感を高めるようにし、積極的に意見を述べ合い、認め合える親和的な学級をつくる。	研究	＜成果指標＞ 地域・保護者と連携し、「アクティブ モラル ラーニング」を通じ、道徳教育を推進している。	＜教職員アンケート＞ 道徳の時間は、将来の生活を豊かにしたり、社会に出たときに役立つと思うか。	考え、議論する道徳授業の実践を今後とも研究し、地域、保護者との連携を推進する。	A	考え議論する道徳について、話型を取り入れ、活動を充実させた。	A	不登校生徒の学力保障と進学の手立てを確実にしてほしい。	考え議論する道徳を中心に据えた心の教育の推進。 道徳実践力の育成に努める。 人や地域の人材を生かした道徳教育を継続して研究する。 本校の道徳教育の実践研修を全国の中学校へ発信する。
		研究	＜満足度指標＞ 自己の能力や適性を自覚させ、キャリア教育の充実を図っている。	＜保護者アンケート＞ 自分のよさを理解し、進路実現に向け充実した生活を送っているか。	生徒アンケートの結果から、成功体験や自己有用感、自己肯定感の高い生徒が多い。	A	各学年で様々な外部講師を招き、適正な職業観の涵養をすすめた。	A		
		生徒指導	＜満足度指標＞ 生徒会活動やボランティア活動に積極的に取り組み、開発的生徒指導を行っている。	＜生徒アンケート＞ 生徒会活動やボランティア活動が活発で、学校生活が充実しているか。	「青い鯉のぼり」「関上ひまわりPJ」「ボランティアチャレンジ」への積極的な参加が見られる。	A	生徒の主体的なボランティア参加がみられる。	A		
		生徒指導	＜努力指標＞ 学習集団、生活集団としての機能を高める学級づくりに努めている。	＜教職員アンケート＞ Q-Uアンケート結果や生徒面談を活用し生徒理解を深め、親和的な学級づくりに努めているか。	全教職員が、特別支援教育の視点を持ち、ユニバーサルデザインを意識した授業を基本的に学級づくりに取り組んでいる。	A	QUアンケートや学期ごとの個人面談の実施により、生徒理解に努めた。	A		
4	体 教科体育・部活動を中心に体力を高め、ねばり強くやり遂げる精神力を育てる。 「食育プロジェクト」を継続して取り組み、家庭や地域と連携し、生涯にわたる健康と栄養意識を向上させる。 部活動は、各部の目標の下に、一人ひとりに目的意識を持たせ、逞しい身体と親和的な人間関係を構築できるよう、保護者と連携して充実させる。 生徒の不安や悩みを迅速に把握し解消できるように相談体制や居場所を充実させ、困り感のある生徒には、合理的な配慮を工夫する。	保健美化	＜成果指標＞ 教科体育や部活動を通じ、体力の向上や粘り強く努力する心づくりに努めている。	＜教職員アンケート＞ 身体計測・スポーツテストの結果などから、体格、体力、粘り強く努力する心は向上しているか。	教科体育や部活動、食に対する意識の啓発から、体格、体力は向上してきている。	A	食育プロジェクトによる成果が、体格、体力の向上に表れている。	A	地域を大切に考える人材を育ててほしい。 部活動では、保護者との共通理解のもと、有意義な活動になるように努める。 不登校対策のために、不安や不満を持っている生徒の教育相談を推進する。	
		保健美化	＜成果指標＞ 「フルコース朝ごはん」活動が浸透し、健康への関心が高まり、生活リズムが改善されている。	＜保護者アンケート＞ フルコース朝ごはんづくりを意識しているか。	県給食献立コンクールへの全員参加と献立内容の質の高さからも、食育の意識の向上が見受けられる。	A	食育プロジェクトに対し、各家庭からの協力が得られている。	A		
		生徒指導	＜満足度指標＞ 部活動は生徒の健全育成に役立っている。	＜生徒アンケート＞ 部活動は楽しく充実しているか。	部活動を通して、満足感や達成感を持っている生徒が多い。	A	保護者の多様な価値観による様々な要望のもと、充実した部活動を進めている。	A		
		生徒指導	＜満足度指標＞ 教育相談体制を充実させ、生徒の実態を把握し、問題の解消に努めている。	＜保護者アンケート＞ 学校は、不安を持っている生徒や困っている生徒の実態を把握し、問題の解消に努めているか。	不安や困り感を持った生徒の実態を把握し、支援員と協力して授業や日常生活の困り感の解消に努めた。	A	教育相談体制を充実させ、該当生徒の早期発見に努めた。	A		
5	家庭・地域との連携 ネットのルールを徹底し、食育を充実させ、団らんの機会をふやすよう推進する。 積極的に有効な情報提供に努め、「開かれた学校」をめざして、地域や保護者の声を大切に信頼される学校づくりを推進する。	生徒指導	＜満足度指標＞ 「家族の絆を深める」取り組みにより家庭と学校の連携力が上がり、良い成果が出てきている。	＜保護者アンケート＞ ネットトラブルやネット依存防止のために、家庭での話し合いやルール作りを行えたか。	ICTサポーターを活用したメディアリテラシー講習等で、活用のルールや注意点を共有できた。	A	アンケートによる現状把握のもと、ネット利用講演を実施し、情報や今後の方策を保護者と共有した。	A	ネット依存症対策として、生徒と保護者の研修とコミュニケーションを促進してほしい。	ネット依存症解消のための学習会を継続する。 生徒の実態把握に努め、家庭のルールづくりを推進する。
		教頭・教務	＜成果指標＞ 学校からの通信やホームページ、メール配信システムを適確に活用している。	＜保護者アンケート＞ 通信やホームページに目を通し、学校の情報を把握している。	個人懇談を始めとする保護者懇談会で、保護者から良い評価を頂いている。	A	ICTサポーターの支援のもと、HPの更新を行った。	A		